昭和14年9月22日　　　　富山縣中新川郡大岩村

3. 採集記錄

青少年學徒に賜りたる勅語奉戴記念日なる毎月の22日には 40km 强歩會が行はれてゐた。9月の例會には魚津町より西南5里なる大岩村の不動堂に決定された。生徒と共に行き晝食をとりてより，樹間や山崖の草間を探索したり，不動堂の縁の下等を探し數種數十匹を得た。其の中本種は不動堂の縁の下で得たものである。信者の木魚の音を頭上に聞き乍ら床下では蜘蛛捕獲といふ地獄相さながらなるを思ひ微苦笑禁じ得ないものがあつた。之は蜘蛛網の中央に糸で卷きつけられた餌だと思ひ乍らよく見ると1匹の蜘蛛の捕虜であつた。歸校後糸を解いて寫生せんとすると動き出した。扨ては生き乍らにして縛られ身動きも出來ず，やがて毒鉤を受けて好餌とせられる所を小生によつて約一日壽命が延びたのであつたか。それにしても蜘蛛の世界における爭鬪の劇しかりしを想起せしめる。其の後何回も探せしも，未だに得るに至らず遺憾に思ふ次第である。

鐘乳洞内の蜘蛛類

1939, 40兩年に於いて，下記數個所の石灰洞内の生物を採集する機會を得た。その中蜘蛛類は高島春雄氏の御厚意によつて植村利夫氏に同定して戴くことが出來た。兩氏に對し深謝する。

〔1〕 愛知縣八名郡石卷村蛇穴 (IV. 1940)

Bansaia nipponica Uyemura　カチドキグモ　(ミヅグモ科)

〔2〕 山口縣美禰郡秋吉村秋芳洞 (26. VIII. 1940)

Theridion akiyoshiensis Uyemura　アキヨシヒメグモ　(ヒメグモ科)

Simonius typicus Kishida　シモングモ　(イウレイグモ科)

〔3〕 德島縣那賀郡大龍寺龍窟 (25. XII. 1939)

Theridion akiyoshiensis Uyemura　アキヨシヒメグモ

Chiracanthium sp.　コマチグモ一種 (幼)　(フクログモ科)

〔4〕 高知縣高岡郡日下村猿穴 (29. XII. 1939)

Bansaia nipponica Uyemura　カチドキグモ

以上の如く甚だ少數の種に過ぎないが，他の生物と同樣に出現種が限定される傾向のあ

るのは面白いことである。アキヨシヒメグモは本誌前號に始めて記載された種で，德島縣大龍寺龍窟で採つたものも植村氏が該種に同定して下されたから，新産地として同好各位の御注意を喚起して置く。

尙，高知縣室戶岬砂丘 (26. XII. 1939) で採集した蜘蛛類も附記して置く。

Anahita fauna Karsch シボグモ (シボグモ科)

Asagena albilunata Saito ハンゲツヲスナキグモ (コガネグモ科)

Heteropoda forcipata (Karsch) コアシダカグモ (幼) ならん (アシダカグモ科)

Pholcus crypticolens Boesenberg et Strand イウレイグモ (イウレイグモ科)

Leucauge sp. シロガネグモ一種 (コガネグモ科)

(波 部 忠 重)

東亞蜘蛛關係文獻目錄

第 13 輯 (1941年度第2回及び1940年度補遺)

5 秋山新一——理數科理科の修練實踐 初等科第三學年用——理科教育 10—3
七月教材虫とくもに於けるくもの觀方調べ方の指導が pp. 84—91に出て居る。

6 植村利夫——東京産サラグモ科一新種の記載——動物學雜誌 53—4 : 212—214, 4圖
昭和14年12月著者が自宅に於て，同月關口氏が東京市外井之頭に於て採取された小蛛をコブグモ *Erigone tokyoensis* sp. nov. (p. 212) として記載。體長約2.5粍，背甲に大形な瘤があり其の頂端に3本の毛を有するのを標徵とする。但し此の3本の毛といふのが確固不動のものであるかどうか將來多數個體につき精査して頂き度い。

7 萱島 泉——臺灣產蜘蛛圖譜(一)——子供の理科〔臺北子供理科の會〕 2 : 40—41
オニグモ及びアシナガグモを易しく圖說してある。

8 植村利夫——秋から冬への上野公園の生物——昆蟲界 9—86 : 253—259
1940年10月29日，11月20日，12月20日の自然景象觀察記事。例により蜘蛛も出て來る。

9 小松敏宏——盲目の蜘蛛——四不像 8 : 57—58
蜘蛛が視力を賴りに造網を行ふかどうかを知らんとしてナカムラオニグモ及びアキタオニグモを盲目にして實驗した漫錄。

10 鈴木正將——盲蛛類の染色體に就いて——動物學雜誌 53—2 : 101
昨秋の日本動物學會第十六回大會の際の講演要旨。5屬5種の邦產盲蛛類の雄性生殖細胞